



経営情報システムでは、情報技術、情報システム開発や情報化社会の動向等の知識が問われる。情報技術の基礎知識、情報システム開発マネジメントの知識に加え、生成AIやブロックチェーンなど、新しい技術の動向についても把握しておく必要がある。

本章では、令和2年度から6年度までの直近5年間における本試験問題の傾向を分野別に解説する。本試験の出典については、たとえば令和2年度第1問なら「R2-1」と表記する。

1 出題傾向分析（情報技術の基礎知識）

(1) 情報処理の基礎技術

①ハードウェア・ソフトウェア

各分野から満遍なく出題されており、過去問題を中心に学習し、広く漏れなく理解しておく必要がある。プログラミング言語では、PYTHONが2回出題されている。言語仕様や表記方法まで踏み込んだ設問があることから、PYTHONに関しては、今後も詳細レベルを問う設問が予想される。

②プログラム設計・ソフトウェア開発

正規表現（R5-2）、半構造化データ（R5-4）

が初めて出題された。オブジェクト指向やUMLの設問は、複数回出題（R2-3、R2-17、R6-3）されている。カプセル化や継承、インスタンス等のオブジェクト指向の用語は理解しておきたい。

(2) 情報処理システムと関連技術

クラウドコンピューティングから複数回出題されている（R3-7、R4-22、R6-11）。クラウドコンピューティングのメリットや技術的仕組みの理解が必須である。また、クラウドコンピューティングを支えている仮想化技術（R3-3）や負荷分散（R5-6）は詳細に踏み込んで問われているので、対応できるレベルまで理解を深めておきたい。

(3) データベース

データベースは直近5年間、毎年出題されている。特に正規化（R2-6、R5-8、R6-7）とSQL（R3-10、R4-5、R5-9、R6-8）は頻出テーマであり、SQLの難易度が上がっている。SQLの他には、近年普及しているNOSQLデータベースに関する出題がある。R6-8には、「CASE、WHEN、ELSE」という条件指定が初めて出題された。関数や条件指定は今後も出題される可能性があるが、関数や

条件指定は膨大な数になるため、過去問題に登場した関数や条件指定に絞った学習が現実的である。

(4) 通信ネットワーク

LANに関しては、無線LANやBLUETOOTH等の無線通信技術が出題の中心であり、有線LANは出題されていない。インターネットでは、IPアドレス（R4-8、R5-11）とインターネットプロトコル（R2-10、R4-7）が複数回出題された。R5-11は、IPアドレスの構造を問う出題であった。IPアドレスのネットワークアドレス部、ホストアドレス部、サブネットマスク等の構成要素を理解しておく必要がある。

(5) システム評価

UX、UI等のユーザ視点の評価方法が複数回出題されている（R2-19、R6-5）。また、R5-13に出題された^{ユークス}輻輳、レイテンシ、ジッタ等の性能評価指標は理解しておきたい。

2 出題傾向分析（経営情報管理）

(1) 経営戦略と情報システム

出題テーマは、①情報化社会や経営情報システムの動向、②近年発行または改訂されたガイドライン、③新しい情報技術またはサービス、の3つに分類される。詳細知識を問う設問が見られるが、サブスクリプションやDX等の定義や特徴を問うレベルの設問もある。

(2) 情報システム開発

定番テーマからは、システム移行、ブラックボックステストやシステム開発方法論が出題されている。アジャイル開発では、XP（R3-18）とスクラム（R6-14）が出題されている。アジャイル開発の中では、XPとスクラムの出題可能性が高い。

(3) 情報システムのマネジメント

セキュリティ技術についての出題が多い。リスク保有、デジタル署名等、定番テーマからの出題があるが、ゼロデイ攻撃（R6-18）やゼロトラスト（R3-21）という初出の用語もある。情報処理推進機構が公表している「情報セキュリティ10大脅威」の第1位が「ランサム攻撃による被害」であることにも注目しておきたい。

(4) 情報システムの評価

性能評価指標やRASIS等、定番テーマからの出題がほとんどを占めている。初めて出題されたリフト&シフト（R4-12）も含め、基礎事項を理解して、確実に得点したい分野である。

(5) 意思決定支援

AIからの出題が5年連続している。基本的な用語を理解するとともに、深層学習の仕組み（R5-3）を確実に理解しておきたい。統計解析手法では、統計の基本用語や推定・検定等、広範囲から出題されている。基本用語の理解を起点にして、できるかぎり詳細なレベルまで習得したい分野である。

(6) その他経営情報管理に関する事項

新しい技術として、ブロックチェーン技術（R4-25）、テレワークセキュリティ（R3-25）が出題されている。ブロックチェーン技術は情報通信白書にも大きく取り上げられていることから、ブロックチェーンの仕組みまで理解しておきたい。

本章では、直近5年間の本試験の出題傾向を分析した。読者の皆さんには各分野を網羅的に学習するとともに、出題傾向分析をもとに、特に重要視すべき分野や用語を意識して学習に取り組んでいただきたい。